



土井裕之と新しい政治を学ぶ会
サポート&資金管理団体

事務所 〒336-0017 さいたま市南区南浦和 2-5-3
 (開所期間：平成 23 年 3 月中旬～ 4 月中旬)
 電話 048-886-2858 FAX 048-873-3446
 土井自宅 〒336-0042 さいたま市南区大谷口 2423
 (TEL・FAX 事務所・自宅兼用)
 Eメール doi@doih.net HP http://doih.net/
 ブログ・ツイッター @doihiroyuki 随時更新!!

活動のご支援をお願い致します。
 ゆうちょ銀行 記号番号 00110-4-611325
 ドイヒロユキアタラシイセイジヨマナブカイ
 (他金融機関からのお振込み)
 店番号 〇一九 当座 0611325

応援メッセージ

納税者代表・土井裕之の出番

元経済企画庁長官
 民権塾塾頭 田中 秀征



土井裕之君が私の主宰する民権塾に参加してからもう 10 年以上になる。その間、彼の言動にっかりさせられたことは一度もなかった。10 年の議員活動を経た現在に至るまで、彼の志、地方政治への姿勢は見事なほど一貫している。それは、議員はまずもって納税者代表であること。そして、税金が無駄なく効率的に使われているかどうか、厳しく監視する使命を持っていること。私はこれから、納税者代表・土井裕之の本格的な出番だと信じている。党や組織に遠慮することは何もない。税金の使途について、市民が期待する方向に進めていくこともできる。私は、土井君が、全国の他の市議会にも波及するような活動をしてくれることを心から期待している。

失業・貧困対策を

元東京都副都知事
 明治大学大学院教授 青山 侑



土井さんは一貫して市民の立場に立って活動してきました。合併特例による議員の任期延長に反対して辞職したことがあるのも、まさに市民目線に立った行動でした。税金から支出される政党助成金の恩恵を受けることのない無所属という立場を貫いて土井裕之さんがこれまで3期がんばってこれたのは、そういう姿勢が支持されたからでしょう。今の日本で最も大切なことは、失業と貧困に対する取り組みです。これがうまく行かないと、年金や介護保険、あるいは保育や医療の財源も確保できません。納税者が求めているのは、納税者が納得する政策を市民感覚に立脚して実行すること。納税者の視点からこそ正しい政策方針が出てきます。土井裕之さんを無所属市民派の代表選手として、一般納税者の代表として押し出してほしいと思います。

子ども、若者のための突破口たれ!

功武館館長 三島 功
 土井君が道場の門をたたいたのが高校 3 年生の時。以来、約 20 年、今や 5 段位を有し、師範として子どもたちや後輩たちを立派に指導しています。空手で培った心身を、議会内外で最大限に活かし活躍している姿を頼もしく見ているところです。今、子どもたち、若者たちが苦悩しています。努力が報われず、希望を持つことが難しい現在。土井君には、もっと子どもが子どもらしく生きられる社会を実現して欲しいものです。押忍、土井君がんばれ!

挑戦! への姿勢

1. 説明責任を徹底する。
2. 自らの主張を鮮明にする。
3. 組織・団体には依存しない。
4. 市民とともに成長する機会とする。

プロフィール About Doi Hiroyuki

1971 年、浦和(現さいたま市)生まれ。武道修行、NPO 活動。1999 年に浦和市議に初当選(地盤・看板・カバンなし)。2001 年の 3 市合併時、議員の在任特例適用に問題提起し議員辞職。コンビニでのアルバイトを経て、2003 年、2007 年のさいたま市議選に連続当選。一貫して無所属であり 3 期 10 年目。民権塾塾生。明治大学公共政策大学院専門職修士(2008 年卒)。防災士。事業仕分け仕分け人登録。空手 5 段(師範)。

▼所属委員会

- 2007-2008**
 環境経済委員会
 行財政改革推進特別委員会(副委員長)
- 2008-2009**
 総合政策委員会・予算委員会
- 2009-2010**
 市民生活委員会(委員長)・決算委員会
 議会運営委員会(理事)・予算委員会
 見沼田圃将来ビジョン特別委員会
- 2010-2011**
 市民生活委員会(委員長)
 議会運営委員会・予算委員会
 見沼田圃将来ビジョン特別委員会

▼参加団体

民権塾／構想日本／日本自治体危機管理学会／NPO 法人「クリの家」サポーターズクラブ副代表／埼玉に夜間中学をつくる会／Village(児童養護ほか)／このまちで暮らす会／(財)さいたま市国際交流協会／NPO 法人水のフォルム／さいたま NPO センター／(財)埼玉県生態系保護協会ほか



納税者主義!!



さいたま市議会議員

どい ひろゆき

土井裕之



「更生日本の門出 前途は実に洋々たり」石橋湛山元首相が述べたのは終戦直後。焼け野原の日本を前にしての言葉でした。それから約 60 年で日本が成熟社会に至ったことは言うまでもありません。そして今。混迷を深める政治、閉塞感に満ちた社会。明快な答えがつかめないまま迷走が続いています。しかし私は、これらの現象を悲観するどころか、歴史的転換期の宿命と捉えています。古いものを廃棄し再構築を進める絶好の機会だと捉え、新たな創造の担い手でありたいと再び挑戦を決意しました。



4年間の軌跡

- 2007**
5月 任期スタート
「機能する議会へ」「本筋の行政改革を」
無所属議員同士で無所属の会結成
「市長とは是々非々」
- 6月** 行財政改革推進特別委員会・副委員長に就任
委員長とともに、委員会での事業仕分けの実施を目標に据える。
- 2008**
4月 行革特別委員会で事業仕分け研修実施
5月 民主党所属市議らと統一会派結成
「民主党・無所属の会」、「議会改革」
「行政改革」「市長とは是々非々」を確認。
- 2009**
4月 会派で清水市長候補との政策協定を結ぶ
5月 相川前市長から 清水新市長へ
6月 市民生活委員会委員長に就任
7月 盆栽枯死事件発生
9月 議会の決定に基づき、委員会で真相究明のための検査・調査。
12月 委員長報告「当事者意識の欠落」を厳しく指摘。
議会基本条例制定
- 2010**
1月 会派主催事業仕分けプロジェクトチーム発足
(リーダーに就任)
5月 会派での仕分け研修
9月 市民生活委 人形会館調査開始
11月 事業仕分け実施
12月 市民生活委 人形会館建設延期決定
事業仕分け結果を政策提案として市長に提出
- 2011**
2月 議員定数削減60名から54名へ議案提出
最大会派含む否決多数により可決とならず。

納得と理解を得る説明のできる議会・市役所をつくる！
事業仕分けで税金は必要な分野に必要なだけ投じる！
「定数削減54」など負担増の前にやるべきことがある！
貧困解消に向けた自立支援で納税者となるチャンスをつくる！



納税者
市民

受益者の声ばかり反映してきた議会。その意向を受けて改革が進まない行政。この議会に納税者の視点を注し、議会から市政を転換させる原動力となります。

これからの “さいたま”

田園都市構想

■**貧困対策** 排除せず受け入れる姿勢を明確にすること。最近、福祉対象外世代の稼働年齢（16-64歳）の貧困が急浮上。生活保護受給に至るまでの待ちの姿勢ではなく、雇用・住宅・教育等において積極的な自立支援策を提供する。取り組みの結果、福祉費用の軽減や税收の確保につながるだろう。

■**「見沼」の活用** 約1200haの関東有数の自然の保全だけでなく農業・観光などを通じて「活用」する。お金をかけずに農地地権者の苦悩を取り除くとともに、民間活力を利用して雇用や産業の観点も取り入れていく。

■**民による運営** 公共サービスは行政が提供する、という時代は終わった。企業、NPOなど多様な民間団体が公共サービスを担う環境づくりを促進する。コスト面もさることながら、質の向上に重点をおく。

■**文化分野への投資** 財政が厳しいと置き去りにされる分野だが、こんなぎすぎすした時期だからこそ、この分野に投資し、心の豊かさを満たす環境を整えていく。その場合は市に内在する文化を掘り起こすことから始めたい。

■**脱・児童虐待** 虐待という理不尽を取り除くため、児童相談所の充実や、保護された子どもが家庭的環境で育ち、自立した社会人として出発できるよう責任を持つ。背景にある親の子育ての苦悩や貧困を取り除く視点も重要である。

■**介護の量的基盤整備** 5-10年後の団塊の世代が介護を受ける時期の前に、介護従事者の確保など量的な介護基盤の整備が急務。家族の自己犠牲に頼る介護は返上し、社会で受け止めていく環境づくりを進める。

■**スマートコミュニティの実験** 太陽光発電助成や、電気自動車普及取り組みなど点を面にする発想から、電力の流れを双方向に制御するスマートグリッドを活用し、スマートコミュニティの試行的実施を求めたい。浪費しない生活、お金のかからない生活の実現を念頭に置く。

（E・ハワード）